

**第 13 回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成 30 年度時点のものです。

名 称	農事組合法人 山辺アグリ F F
所在地	山辺町
応募タイトル	水田フル活用で地域をけん引するフロンティアファーマー
<p>1. 取組の背景・経過等</p> <p>(1)オーガニック・エコ農業の取組み開始年 農事組合法人山辺アグリ F F（構成農家数：11 人）（以下、山辺アグリ F F）は、平成 7 年に大規模水田農家が集まり任意組織として活動を始め、平成 17 年に法人化した。平成 20 年、山辺町農業再生協議会に山辺アグリ F F を構成団体とする飼料用米推進部会が組織され、生産した飼料用米を町内の養豚業者（㈱山形ピッグファーム）へ供給し、そこで作られた堆肥を飼料用米生産圃場に還元する耕畜連携による地域内循環型農業の取組みが始まった。</p> <p>(2)動機 山辺アグリ F F が転作作物として栽培していた大豆やそばは、収量が低く、採算的に厳しい状況が続いていた。一方、新規需要米（飼料用米）は、一定以上の収量が確保でき、既存の農業設備を活用できることから、転作作物として有望と考えていたが、流通経路の確保と実需者への販売が大きな課題であった。しかし、山辺アグリ F F は、転作面積が増加したことや飼料用米の販売先が確保されたことから、平成 19 年に新規需要米（飼料用米）を導入することを決め、地域内循環型農業を実現する下地を作った。</p> <p>(3)経営状況（面積、取扱い品目等） 山辺アグリ F F の水田面積の合計は約 138.7ha であり、そのうち主食用米 108ha、飼料用米 13.7ha、加工用米 17ha の生産を行っている。主食用米のうち 24.3ha で特別栽培米の生産に取り組んでいる。飼料用米は、専用品種（ふくひびき）を用い、7.2ha で直播栽培を行っている。</p> <p>(4)販路先 山辺アグリ F F は、生産した飼料用米の全量を㈱山形ピッグファームに販売している。主食用米は、「山辺アグリ F F 流米」の銘柄で、全量を卸売業者や小売業者と販売契約を結び、安定した販売を行っている。</p> <p>(5)各種認証の取得状況等（エコファーマー、特別栽培農産物認証、有機 JAS 認証、GAP 等） 「つや姫」22.6ha、「コシヒカリ」0.6ha、「はえぬき」0.5ha、「ひとめぼれ」0.6ha で山形県特別栽培農産物認証を取得して、特別栽培米の生産に取り組んでいる。</p> <p>2. 取組内容</p> <p>(1)土づくりのための取組み 飼料用米の生産では、㈱山形ピッグファームからの完熟堆肥を圃場に還元し、圃場の土づくりと地力の維持に努めている。年間の圃場投入量は 400 kg/10a、全体で 54.8 t である。 主食用米の生産では、堆肥のほか発酵微生物資材「ワーコム」と、有機質資材割合 6 割以上の基肥を施用している。また、玄米粗タンパク質含有率測定結果を翌年の肥培管理に反映させ、圃場に応じた施肥設計計画を立てている。</p> <p>(2)生物多様性に配慮した防除や鳥獣害対策のための取組み 主食用米の特別栽培に取組み、化学合成農薬の使用回数を低減し、生物多様性に配慮した防除を行っている。</p>	

(3)地球温暖化抑止や生物多様性保全等の取組み

飼料用米の栽培圃場への完熟堆肥の継続施用と、主食用米の特別栽培の取組みで、土壌に対する有機質資材の供給（炭素蓄積）と化学合成農薬の使用量を低減している。

(4)地域内外への波及に向けた取組み

山辺アグリFFと(株)山形ピッグファームとの耕畜連携による地域内循環型農業の取組みは、山辺町農業再生協議会に飼料用米推進部会が組織される契機となった。

(5)持続可能な経営の確立に向けた取組み

山辺アグリFFは、年1回開催される総会で多様な専門分野の講師を招き、組合員の知識・技術の向上を図っている。堆肥散布や温湯種子消毒の共同作業で農作業の効率化を図る一方、育苗から乾燥調製までは各組合員が単独で行い、個々の経営や多様性を尊重した運営を行っている。また、肥料・農薬の共同購入で低コスト化を図っている。



穂肥巡回



飼料米栽培研修会

(6)生産工程の見える化等の取組み

山形県特別栽培農産物認証を取得しており、各生産者が農作物生産工程を把握して、農薬の使用状況等の記録を行っている。山辺町が主催する産業まつり「やまのべ・まるごとフェスティバル」に参加して特別栽培米などを提供し、地域理解の醸成を図っている。

(7)人材育成活動

栽培管理技術や農業経営力向上のために親子間だけでなく、親世代と意見交換を積極的に行い、法人設立世代から後継者への円滑な事業継承を進めている。

3. 活動の成果

(1)土づくりのための取組み

完熟堆肥の継続施用で、水田の土づくりと地力の維持向上が図られている。また、(株)山形ピッグファームから提供される安価な堆肥で飼料用米生産の低コスト化が図られている。飼料用米の生産と堆肥の供給は同一町内でやりとりされるため、地域内の循環型農業を実践している。

(2)生物多様性に配慮した防除や鳥獣害対策のための取組み

特別栽培の取組みで農業生産活動における環境負荷の低減と生物多様性の保全が図られた。

(3)地球温暖化抑止や生物多様性保全等の取組み

完熟堆肥を継続施用で生物多様性に配慮した農業生産活動が行われた。また、特別栽培の取組みで、ほ場周辺の生物多様性が保たれている。

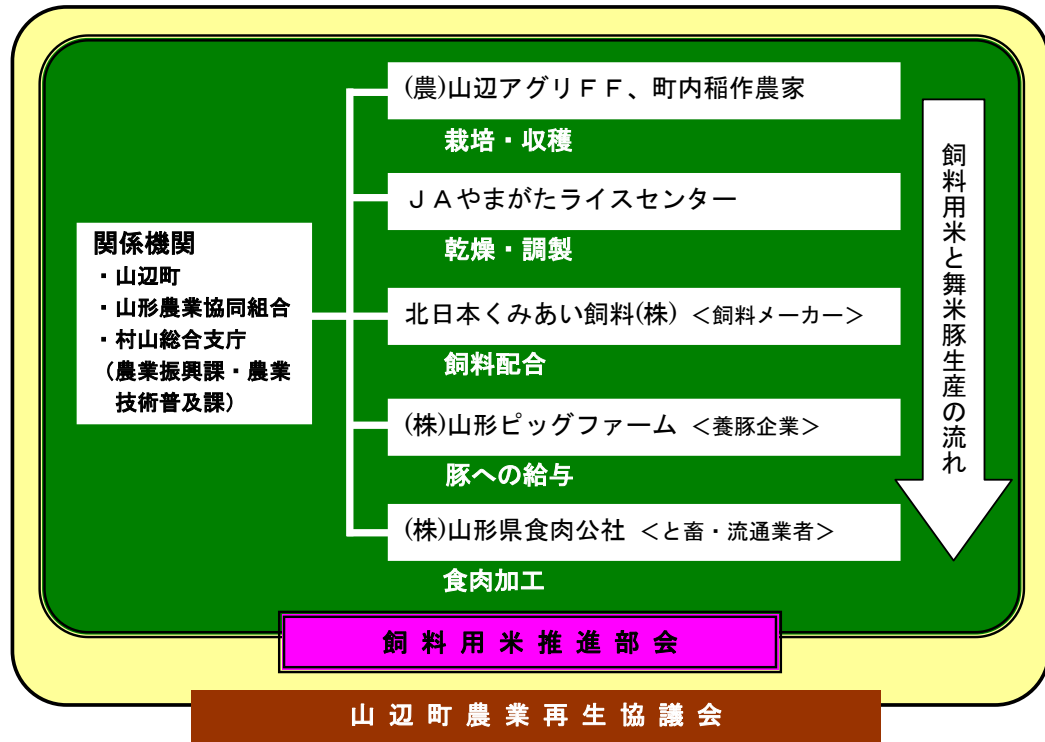
(4)地域内外への波及に向けた取組み

山辺アグリFFが中心となって取り組んだ飼料用米生産は、行政や町内水稻生産者、JA、飼料会社、食肉公社等の民間企業を巻き込んだ「山辺町飼料用米プロジェクト」の設立に繋がった。

現在では、山辺アグリFFを含めた町内 21 農家が飼料用米生産に取り組み、堆肥を飼料米生産圃場に還元する地域内循環農業が確立されている。

なお、同法人が構成団体を担う山辺町農業再生協議会の飼料米推進部会は、(株)山形ピッグファームのほか、飼料メーカーおよび精肉業者で構成され、飼料米の生産から豚肉の流通・加工・販売までを一元化して推進しており、「舞米豚」としてブランド化され町の特産品となっている。「舞米豚」は、地元スーパーマーケットでの販売や飲食店で食材として利用しているほか、食育・地産地消推進の一環として学校給食にも提供されている。

<山辺町農業再生協議会飼料用米推進部会組織図>



(5) 持続可能な経営の確立に向けた取組み

山辺アグリFFでは、飼料用米専用の多収品種の導入及び、自家採種や直播栽培(鉄コーティング直播: 3.4ha、べんがらモリブデンコーティング直播: 3.8ha)による栽培コストの低減、立毛乾燥による機械乾燥時間の短縮で総合的にコストダウンを進めるとともに、堆肥散布や温湯種子消毒は共同作業とすることで農作業の効率化を実現している。また、資材の共同購入は主食用米と飼料用米の生産コストの低減にも結び付いている。



べんがらモリブデン直播栽培の導入



立毛乾燥の導入

(6) 生産工程の見える化等の取組み

消費者に対する生産情報の発信が行われ、特別栽培に対する地域理解の醸成が図られた。また、生産者の特裁に対する意欲の向上に繋がった。

(7) 人材育成活動

親子間の技術指導に加えて後継者と親世代の積極的な意見交換が行われたことから、後継者の稲作管理技術や経営能力向上が図られ、組合員の後継者5名が専業で農業に従事した。